

1 自己評価および外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500660		
法人名	社会福祉法人 暖家		
事業所名	グループホーム 私の部屋(1F さくら)		
所在地	岐阜県各務原市須衛町3丁目151番地		
自己評価作成日	平成21年5月15日	評価結果市町村受理日	平成21年7月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170500660&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年5月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ボランティアの方が多く訪れ、多様なジャンルで利用者が楽しまれている。
- ・月間、年間行事を通じて皆との交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全居室にトイレが設置されており、しかも居室の扉が開放されていても廊下からは室内が見えない設計になっているなど、人権を大切に作る姿勢がハード面からも感じられる。窓も多く、広い生活空間は開放的で、テラスには手入れが行き届いた花であふれており、利用者の安らぎになっている。また、医療機関との連携体制がしっかりできている。法人グループ全体で、運営改善や職員教育が組織的に行われており、少しでもケアの時間を確保するために、昼食と夕食の副食は法人グループで調理したものを利用したり、職員間で共有する記録等の記入を工夫し、職員は利用者の満足度が高い目標を定め努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1F さくら)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の交流も入れ、カンファレンスでサービス計画をたて、自然体で心休まる居心地の良い空間づくりに取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義をふまえて、「居心地の良い空間づくり」を目標にしている。カンファレンスや運営会議で自分達のケアが理念の実践になっているか評価し、常に高い目標をめざし努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年4回の地域との推進会議と、地域が主催するふれあい広場などのイベントに参加し交流を続け、顔見知りになっている。	山や田畑に囲まれ、近隣が気軽に立ち寄れる環境ではないが、地域の祭りや行事に参加し努力している。近隣の法人グループの施設行事への参加や喫茶を利用することで、地域の人とのつながりが生まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回の地域推進会議の場や、認知症のケア予防の公開講座など、地域に向けての時間を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の上での報告とともに情報誌を町内に回覧し、サービス向上に取り組んでいる。	近隣の法人グループのデイサービスと合同で年4回行われており、ホームからは利用者の様子や取り組みの報告、地域の委員からは地域行事の紹介があるなど協働して地域に密着していくための話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域推進会議に出席していただいて意見を伺ったりなど、質の向上に取り組んでいる。広報誌も利用している。	市の担当者にはホームの情報を提供し、現状を把握してもらい、常に連携が取れるよう取り組んでいる。法人グループの組織としても、人材育成や市主催の行事などで協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険を知らせる鈴を付けたりと工夫し、拘束をしないケアに努めている。言葉の拘束を減らすようカンファレンス等でも取り上げ話し合っている。	職員は、勉強会や書物等を通して、身体拘束をしないケアを十分理解し、それを実践している。拘束をしないことで起こりえるリスクは、リスクマネジメント委員会で検討し助言をもらうなど、惜しみない努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力も含め、学びの場を設け勉強し実践している。		

岐阜県 グループホーム 私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の勉強会やカンファレンス等で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する不安・疑問など納得していただけよう十分説明すると共に、入居される本人に安心して過ごして頂けるよう努力している。家族会も利用して説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し意見を頂いている。解決策については、毎月のカンファレンス等で検討し反映させている。	玄関に意見箱を設置すると共に、家族の面会時や電話連絡時には利用者の現状を説明し、直接要望や意見を聞いたり相談等に努めている。そこで出た声や意見等は記録し、カンファレンス等で検討のうえ対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで出た意見や提案を、毎週運営会議を設けて反映させている。	ユニット単位の会議で職員は意見を出し、3ユニット合同のカンファレンスで話し合い、毎週の運営会議、さらには、法人全体の会議でも検討している。職員の意見は管理者が受け止め、組織としての課題等は代表に挙げるなどの仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を活用し、話し合いを持ち、向上心が持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会及び委員会への参加でレベルアップを図っている。新人・中途採用者の研修も行っている。職員の資格取得を法人として援助するシステムがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の勉強会などに出席し、レベルアップに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを収集し、それを元に安心と信頼していただける、そんな関係を築く上でも傾聴し和んで頂けるようコミュニケーションづくりに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時など何でも話して頂けるよう、日頃から信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	穏やかに過ごして頂けるよう「その時」に合ったケアの仕方や安心感を持って頂けるよう、コミュニケーションを密にとり対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意欲の出ることをやっていたり、また逆に私たちの方が教えていただくことが多く、喜怒哀楽を共にした毎日を過ごして頂けるよう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話での連絡時にコミュニケーションを密にとり、どんなささいなことでも安心して話して頂けるような関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実家のある地域へ出掛け、そこでの交流や会話で昔のことを思い出し、楽しく過ごして頂けるような時間を作っている。	家族や知人の訪問は多く、来訪時には寛いで過ごせるよう気配りをしている。本人が行きたい場所や会いたい人への思いをサービス計画の中に反映させ、これまでの関係を断ち切ることなく支援に努力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全く無縁の人たちの集まりなのにそれを感じさせない日常の雰囲気と、皆家族の如く「異変」を教えてくれる元気な入居者様と良い関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを去られてもフェニックス内の施設に入られると会いに行ったりと交流ができるので、これまでの関係が維持できる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居心地の良い環境で日々を過ごして頂けるよう、希望や意見を取り入れたケアに努力している。	本人の何気ない動作やコミュニケーションの中から、その人らしいホームでの暮らしを見つけ出す努力を常にしている。家族からの情報も職員間で共有し、笑顔で暮らしてほしいという職員の気持ちが努力に現れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人の会話の中で昔の生活歴・生活環境を知り、把握し、日常のケアにも活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に合った過ごし方で毎日穏やかに過ごして頂けるよう、日常の状態をカルテに記入し、皆が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・本人・法人内の専門職からの要望を取り入れ、カンファレンスで話し合いケアプランに活かしている。	本人と家族の意向を軸に、職員間で適切なケアを充分話し合った上で計画が作成されている。モニタリングも、法人内の専門職に意見を聞く場があり、幅広い視点から検討して計画を実践につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子・状態を記録し、ケアプランに沿った行動・ケアが出来ているか毎日モニタリング用紙に記入し、見直しに活かしている。基本的には3ヶ月おきに介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループ内の行事参加・ボランティアの来所なども取り入れご利用者のニーズに応じている。また体調に困ったり嚥下の低下などでお粥にして対応したり、とろみを付けたりなど、その時々ニーズに合わせた対応をし取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム 私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加や定期的に来て下さるボランティアの方々との交流のほか、消防署の年2回の訓練など、安心且つ楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列のクリニックや東海中央病院の協力体制のもと、月4回の医師回診・毎水曜日の看護師訪問を行っている。特変時にも即対応・指示を頂ける体制で日々支援している。	協力医の往診が月2回から4回に増え、看護師も毎週定期的な訪問があるなど、医療連携や協力体制が整っている。状況に応じた柔軟な対応で通院が行われ、適切な医療が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週来訪する看護師や普段から密着して情報共有している看護師などのおかげで個々の利用者が安心して過ごして頂けるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中にお見舞いに行き入居者に安心していただいたり、病院からの情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に一番合ったケアができるよう、医師・家族・職員が早いうちから話し合い方針を共有できるよう取り組んでいる。	家族、医療関係者、職員で、本人に一番適切なケアを話し合い、ホームでできることを確認し、情報を共有して方針を決めている。法人グループの協力も得られ、看取りの体制も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿った急変時の対応や消防署員による救命訓練など、応急手当や初期対応が落ち着いてできるよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の立会い訓練と、年3回の職員だけの訓練を行い、避難できるよう身につけている。	年2回、消防署立会いのグループホーム全体で行う避難訓練と、年3～4回は各ユニットごとに避難経路の確認や非難時の動作がスムーズに行えるよう実践している。地域には災害時の協力を働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、穏やかに過ごして頂けるよう、声かけし、十分気をつけて対応している。	各居室にはトイレが設けられ、扉を開放していても室内が見えない設計となっており、プライバシーの確保を確かなものになっている。職員は利用者の生活歴を把握したうえで、その人の特性に合わせた言葉掛けや対応を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べ物から始まり散歩のコースなど自己決定していただくことによる満足と、不穏解消で楽しい日々を過ごして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各々の希望ペースでゆったりと過ごして頂いている。入居者中心のペースで介護している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、カットや染を美容師に依頼している。男性は毎日のひげそりの手伝いなどを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや盛り付け・配膳下膳を手伝ってくださる。一緒にテーブルで食事をとり会話を楽しんでいる。	昼、夕食の副食は法人グループ施設で調理したものが届き、盛り付け、配膳、後片付けを利用者と職員が一緒にしている。行事食やおやつを作る事もある。食卓には季節の花を置いたり、その日のメニューを掲示し、食事が楽しみとなる工夫がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のたてた献立でバランスの良い食事内容になっていて、本人のその日の状態に応じた食事量や水分摂取をしていただくよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアとともに、週2回の義歯洗浄を行い、清潔保持の支援をしている。		

岐阜県 グループホーム 私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入して、一人一人のパターンを職員皆が知り支援している。またオムツの方もトイレをできる限り利用し、排泄の自立に向け支援している。	排泄委員会があり、専門業者や家族に相談しながら、その人に合った排泄用品を提供出来るよう努力している。排泄チェック表を活用し、トイレでの排泄誘導を行っている。自分で排便の記録ができる利用者には、声かけしながら継続してもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操したり散歩しに行ったりと体を動かす事で対応したり、ヨーグルトやセンナ茶、腹部マッサージなど個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を入れ楽しんでいただいたり、レベル低下に伴いシャワー浴の方も足浴をし、体を温めて頂けるよう工夫し支援している。	ゆったりとした浴槽と明るい浴室で、一人ひとり満足してもらえる入浴と清潔保持に努めている。利用者の体調や体力を見ながらシャワー浴や足浴など柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の流れの中で昼寝を促したり、車椅子の方の体調管理も兼ね、本人のペースに合わせて臥床していただいたりして支援している。夜間良眠できるように日中の活動(散歩・家事手伝い・アクティビティ等)を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合、体調チェックなどを行い症状の異常がないか確認している。また服薬拒否の方にも内容を説明し、納得していただくよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の好きな方とベランダで水をやったり、洗濯物を干したり畳んでいただいたり、時には雑巾を縫っていただいたりなど、楽しみながら気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日の散歩やベランダへ出での外気を楽しんだり、他施設の行事に参加したりと、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望に添ってホーム周辺の散歩や法人施設の喫茶店などに出掛けている。外出に介助が必要な利用者が多くなり、これまでのように気軽に行く機会が減ってきており、ベランダを利用した屋外活動で外気に触れる工夫をしている。	家族からは外へ連れ出してもらいたいとの要望があり、職員ももっと外出支援ができたらの思いがある。職員の思いと限界で疲弊することなく、家族や地域の人と共に、利用者を支えることが出来る仕組みを工夫されたい。

岐阜県 グループホーム 私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や喫茶店・外食での支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	自由にいつでも掛けられるよう支援している。ご家族の声を聞くと安心され笑顔が戻る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾品を飾ったり置いたりして季節感を味わっていただけるよう工夫している。	ところどころに障子を使い、畳コーナーを設けるなど、落ち着いた生活空間を作り上げている。共有場所は明るく、十分な広さが確保され、ベランダには季節の花が溢れている。掃除が行き届いており、整理整頓されたリビングなので、見方によっては生活感が感じられない部分もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の間を設け、自由に思い思いの場で過ごして頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などご家族に持ち込んで頂き、穏やかに過ごして頂けるよう工夫している。	居室には備え付けのクローゼットがあり、持ち込みの整理タンスなどの上に写真や使い慣れた身の回りの物が置かれている。全居室が廊下に面しており、風通しがよく、カーテンも明るい色が使われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の時間を有意義に過ごして頂けるよう、オルガンの設置・新聞・ベランダや畑の花木など入居者ができることや楽しめるように工夫している。		

1 自己評価および外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500660		
法人名	社会福祉法人 暖家		
事業所名	グループホーム 私の部屋(2F こぶし)		
所在地	岐阜県各務原市須衛町3丁目151番地		
自己評価作成日	平成21年5月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170500660&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年5月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(2F こぶし)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回のカンファレンスで話し合い、1年間のサービス目標をたてて個々のケアにとりいれ、職員間で共有し取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事・盆踊り・祭りなどに参加。グループ内の行事や喫茶コーナーへの参加など、必要に応じ交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勉強会の一般公募や地域に向け認知症のケア予防の講演会を開いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の参加もあり、貴重な意見をいただいたり、地域の行事への参加の機会を作り、ケアの向上に活かしている。また認知症の理解を深めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人全体として勉強会の参加を一般公募している。またサービスの内容や広報などの情報を提供している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は二重扉になっており、障子戸に鳴り物を付け、開けたらすぐに一緒に出かけるように対応している。また常に委員会や勉強会で勉強し、カンファレンスにて話し合い取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で常に学ぶ機会があり、虐待の危険を見過ごすことがないように注意している。		

岐阜県 グループホーム 私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度は利用されている。勉強会で学ぶ機会があり、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解除時には相談窓口があり、十分説明を行い理解していただいている。家族会も利用して説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートの実施や意見箱を設けたりし、意見を出せる場面を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回の運営会議・月1回の若葉会があり、交替で参加し、意見など出せる機会があり反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の取り組みがあり実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会や委員会があり、自由に参加できる。また段階に応じ、内・外部研修に積極的に参加できる。職員の資格取得を法人として援助するシステムがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流は常に行っている。またグループホーム協議会にて情報交換できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時に必要なアセスメントを収集している。また入居時にはご家族から要望・不安などを尋ね、利用者とは多くコミュニケーションをとり信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談をしっかり受け止め、利用者とはゆっくり関わる時間を持ち、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の状況を把握し、必要としている内容を早急に知り提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜作りやメダカのえさやりなど利用者と一緒にいき、得意なことを把握し、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはその都度状態報告をしたり、特変時には電話にて報告している。毎月行事予定の案内を出し、参加の希望を伺っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人などの訪問時にはゆっくりくつろげるよう配慮し、間に入り会話がはずむように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席やソファの座る位置などを、利用者同士が関わりあえるよう配慮し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても法人内を利用されていることが多く、引き続き相談や支援ができるシステムがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報収集や、日々の中からトリガーを見つけケアに取り入れている。常に本人とのコミュニケーションをとり、記録し、情報の共有化をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメント表を使用し把握している。また会話の中から情報を収集し記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態をカルテに記入し、申し送りや日誌で状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のできることや気づきを記録しておき、月1回のカンファレンスにて話し合いをしている。また家族・法人内の専門職の意見を取り入れ、介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日カルテに状態や気づきを記入し、月1回のカンファレンスにて話し合いをしている。基本的には3カ月おきに介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループ内の行事参加や喫茶コーナーの利用、またボランティアの来所などのサービスを利用している。		

岐阜県 グループホーム 私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各ボランティア・理美容院の来所や年2回の消防訓練などの協力体制があり、必要に応じ協力いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師回診が月4回あり、常に連携がとれている。必要に応じ系列の医療機関で受診している。また家族希望の医療機関でも受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護がある。また24時間体制にて連携がとれており、必要に応じ受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	訪問看護師が間に入り相談できるよう連携がとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に合わせて家族と医師がよく話し合い、方針を決め、職員間で共有し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や全体カンファレンスにて緊急時の対応について学び、マニュアルの周知徹底を図っている。また消防職員による救命講習を受け、心肺蘇生法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を消防署立ち会いのもと年2回行っている。また定期的に利用者と共に避難経路の確認や、備品(食料や飲料水)の点検を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トリガーシートに不快となる情報を記録し声かけに注意している。トイレ誘導時は声かけに工夫し配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴準備を一緒に行ったり、おやつ時の希望を尋ねたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	高齢の方は日中臥床していただいたり、新聞を好きな方には貸し出したり、役割を持って家事手伝いをして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の長い方は毎日結ぶ支援をしている。またグループ内の美容院を利用し、希望の髪型にして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を活かし盛り付けや片づけをして頂いている。食事中は食材やメニューなどの会話がはずむよう話題の提供をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士に相談出来ている。食事摂取量低下時は補助できるプロッカ・メイバランスなどが常備してある。利用者の状態に合わせて形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	風邪が流行っているからと声かけに工夫しながら、毎食後の口腔ケアをして頂いている。また週2回の義歯洗浄を行っている。		

岐阜県 グループホーム 私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、パターンを知り、トイレ誘導を行っている。おむつは随時見直し、家族に報告している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトは毎日摂取したり、利用者に合わせてセンナ茶で対応している。またトイレ利用時、腹部マッサージなどを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安心して入浴できるよう、時間やタイミングに注意し声かけの工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動(散歩・家事手伝い・アクティビティ等)を利用者に合わせて促し、夜間良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用の一覧表があり理解している。変更があった時にはバイタルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を把握し、好きなことを知り、発揮できる役割を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やゴミ出し・周辺のドライブなどを行っている。またグループ内の施設にて喫茶を楽しんでいる。		

岐阜県 グループホーム 私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	売店や喫茶店などに出かけた時には支払っていただくよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談し、電話の使用を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアは季節感のある飾り付けをその都度行っている。ベランダには季節の草花や野菜を植え、メダカの飼育をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳やソファを置き、自由に過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、使い慣れた物や写真を持ってきていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に大きな名札を付け、混乱を防ぐようにしている。		

1 自己評価および外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500660		
法人名	社会福祉法人 暖家		
事業所名	グループホーム 私の部屋(3F もみじ)		
所在地	岐阜県各務原市須衛町3丁目151番地		
自己評価作成日	平成21年5月15日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170500660&SCD=320>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年5月30日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票(3F もみじ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づく今年のサービス目標「居心地の良い空間づくり」を掲げ、個々のニーズに合ったケアプランを立てている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の資源回収・お祭り・森林ウォーキング・盆踊り・ふれあい広場などにて交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にてグループホームの見学や認知症についての勉強会を実施し、認知症への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状を報告する事、理解していただけ、地域での役割・行事・催し物へのお誘いがある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人単位で市との連携が取れるよう組織化している。住民ボランティアや実習生の受け入れ、福祉フェスティバルへの参加をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての書物をスタッフ間で回覧したり、カンファレンス等で話し合っている。法人全体で勉強会があり学んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人全体・各部署の勉強会にて学ぶ機会があり、虐待防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム 私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体の勉強会で学んでいる。必要と思われる人には支援できる体制である。相談に応じた例もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明し同意を得ている。改訂においては文書及び家族会にて説明をしている。その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ふれあいボックスを設置している。面会時・電話での連絡時に困ったことや必要なことはないか尋ねるように心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスにおいて職員から出た意見や提案を毎週月曜日の定例運営会議にて報告し、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より職員から意見を聴く機会を持ったり、人事考課表を活用し向上心が持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として新人・中途採用者の研修を実施している。段階に応じ外部研修を受けることができる。職員の資格取得を法人として支援するシステムがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の定例会議や研修会にて他のホームとの交流があり、意見交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に馴染んでいただくため、ご家族より本人の情報を多く収集し、寄り添い、コミュニケーションをとり、不安解消できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの相談を受けとめ、ニーズを把握し、不安解消に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受けた相談内容により、法人内の部署と連携し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理・習字・生花・野菜作り・百人一首を一緒に楽しんでいる。そのなか、利用者から教えて頂けることがあり、感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話での連絡時に状態報告をしたり、誕生会やその他の行事参加を促し、共に支えていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人が来訪できるようご家族の了承を得、会っていただいたり出かけたりしている。また馴染みの飲食店や名所などへの外出の機会を定期的につけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性を把握し、それぞれが関わりを持てるようテーブル席やソファへの誘導を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても法人内にて連携し、いつまでも相談できる体制を整えている。サービス終了後、家族がボランティアとして活動して下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族から情報収集し、日々の暮らしの中に活かすことができるよう支援している。社会的な利用者へは社会的な機会を多く持てるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からこれまでの経過を話して頂けるようコミュニケーションを図る。バックグラウンドアセスメント・東京センター方式の活用。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムを把握し、行動や身体変化があればカルテや業務日誌に記入し申し送りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を伺い、本人にとって必要なケアや支援をカンファレンスで話し合い、身体状況により法人内の専門職の意見を聞きケアプランを作成している。最後に家族に説明し了承していただいている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本的には3ヶ月おきに見直しを行っているが、状態変化に応じて即家族や関係者と話し合い、新たな介護計画書を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人が窓口となり地域行動への参加、ボランティアの訪問、また他部署の専門的な意見などの協力もあり、利用者のニーズに応じることができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の協力で地域公民館で行われるふれあい広場へ参加している。年2回消防署員立ち会いのもと訓練を実施している。毎月地域幼稚園児の来訪、各種ボランティアの受け入れをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の協力医のほか、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう支援している。受診時の通院介助は家族となっているが、法人協力医への受診は職員が行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専属の看護師には常に状態を報告し相談している。深夜など緊急時には法人内の看護師の協力を得られる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護師が間に入り相談ができるよう連携がとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期には家族・看護師・かかりつけ医・職員と繰り返し話し合い、今後の方針を決めている。看取りの経験があり、看取りの体制は整っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体で、また各部署において定期的に勉強会を行い、具体例での実践で学習している。消防署員による救命講習を受け、心肺蘇生法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署員立ち会いのもと避難訓練を実施し指導を受けている。3ヶ月に一度はホーム職員のみで訓練を実施している。運営推進会議において地域の方々の協力が得られるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを傷つけないようさりげない対応に心がけている。法人全体・グループホームで勉強会において意識の向上を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類・食べ物・入浴時間など選択できることに関しては自己決定できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前の暮らしぶりを把握した上で現在の身体状況をふまえ、新聞を読む・歌番組視聴・散歩・家事手伝い・園芸など本人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	法人内の美容室にて好みの髪型・髪染めができる。家族とともに行きつけの美容室へ行かれる方もある。化粧・マニキュアの支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる能力に応じ、職員とともに調理・盛り付け・配膳し、利用者と同じテーブルで一緒に食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量はチェック表にて確認し、適切な対応に努めている。お茶や汁物が嫌いな入居者には好みの飲み物を食間に摂って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後・個々の身体状況に合わせ、声かけ・見守り・介助にて実施し、週2回義歯洗浄剤を使用している。		

岐阜県 グループホーム 私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンやサインを把握し、トイレでの排泄を支援している。おむつ・パットの使用が減らせるよう見直している。排泄委員会において排泄の自立支援ができるよう検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のヨーグルト摂取・多めの水分補給・繊維質の多い献立・運動などで自然排便を促す工夫をしている。便秘予防の勉強会も定期的に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人や家族と相談し、個別に合った入浴の支援を行っている。入浴を拒む方に対しては入浴前より声かけや対応を工夫したり、相性の良い職員が入浴介助を行うようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や本人の希望により、日中でも休息していただいている。日中、散歩・家事手伝い・アクティビティ等を促し、夜間眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情・処方せんは個人のカルテごとに整理してあり内容を把握している。薬が変わったり新たに処方されれば様子観察をし、看護師・医師に報告し指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	接待上手な方にはお茶を出して頂き、園芸の好きな方には作物の手入れ・水やり、毎日のゴミ出しの手伝いは自分の仕事と思っている方には一緒にゴミ出しに行くなど、役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の希望で散歩に連れて行ってほしいとの要望が多いので、日常の少しの時間でも外気に触れる時間を持って頂くため職員間で工夫している。		

岐阜県 グループホーム 私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や喫茶店・外食での支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との相談の上、本人からの要望・職員からの声かけにて電話をして頂いている。年賀状や暑中見舞いなどの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感のある物・馴染みの物を置くようにしている。リビングからベランダへはいつでも出られ、天気の良い日には景色を見ながらテラスカフェを楽しんだり、バーベキューや流しそうめんも行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自好みの定位置のテーブル席・ソファー席がある。畳のコーナーや廊下の端にも少人数で過ごせる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談の上、馴染みの物を居室に置いて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	名札・目印を設置し、混乱を防ぐようにしている。		